彙　報

本会記事

西南アジア研究会総会

1996年度総会は，先の会告のごとく，1996年12月 7 日午後 2 時から，京都大学楽友会館において開催された。

小野山節会長の開会の挨拶の際，新たに谷口淳一氏を編集委員に加えたこと，および故伊藤義教氏より本会への寄付があったことが報告された。続いて桑山正進氏を議長に選出し，議事に入った。まず久保一之委員と谷口淳一委員から，会誌発行状況，会員数，会計等の会務についての報告が行われ，ついで，勝藤猛監事から会計が適正に処理されている旨報告された。その後，編集委員からの提案により，会誌第48号（1998年 3 月発行予定）を伊藤義教博士追悼記念特集号とすることが諮られ，承認された。

総会議事の後，京都大学大学院教授庄垣内正弘氏に，「サンクト・ペテルブルグ所蔵ウイグル文献について」と題してご講演いただき，最後に間野英二副会長の閉会の挨拶をもって終了した。

会費納入のお願い

本誌第45号発送時に1996年度会費（第45～46号相当分）および滞納金をご請求申し上げたところ，多くの方からご協力が得られました。誠に有難く存じ上げます。

しかしながら，いまだご入金いただいていない会員の方も，少なくありません。第45号発送時にご通知した，会費納入状況をご確認の上，早々にお支払いいただけるようお願い申し上げます。

『西南アジア研究』投稿規定

Ⅰ　投稿先　西南アジア研究会　〒606-01　京都市左京区吉田本町　京都大学文学部内

Ⅱ　原　　稿

1　B５版200字詰原稿用紙に横書きのこと。(原稿の全内容を入力したMS-DOSテキストファイルを添付することが望ましい。)

2　論文は注を含め80枚ていど，研究ノート・研究動向は20枚～60枚とする。

3　論文等すべて１号限りで完結するものとし，連載はしない。

4　採否は編集委員会が決定し，手直しを求めることもある。

5　原稿は返却しない。ただし図については，投稿時に申し入れがあれば返却する。

6　別刷は30部を進呈する。ただし増刷はおこなわない。

7　投稿者は本誌の体裁にしたがい，以下の書き方に統一すること。

a．第１頁に表題・氏名，第２頁にその英訳，第３頁以下を本文とし，注・文献表を含めて通し頁をうつ。

b．章はローマ数字，アラビア数字で示す。ただし章節の表題の有無は自由である。

c．注は別紙おこしとし，本文の後ろにつける。注の書き方は次のとおりとする。

　1)　この場合，帝王の叙任は……

　　どちらともいえない。

d．頁のみの引用はしない。参考文献の場合は［Fussman 1978：94―98］，資料の場合は［HS：25］として本文中に入れる。なお94―98，25などは引用頁である。

e．dによって生じる文献表をつくり，別紙おこしで注のうしろにつける。筆者姓ＡＢＣ順とし，欧文，和文，中文を混記する。中文は拼音による。書式は，下のⅣのとおり。

f．雑誌などの略号は本誌の表紙うらの方式にしたがうこと。単行本・雑誌は，欧文ではイタリック指示，和・中文では『　』に入れ，論文表題は括弧をつけず，裸のままにする。巻数はアラビア数字とし，号数は（　）に入れて，３（１），４（３-４）［３，４号合併号の場合］などとする。Vol.，Partなどの表示はしない。なおロシア文字はイタリックを用いない。

8　以上により，文字原稿は，表題・氏名，英文表題・氏名，本文・注，文献表より成る。

Ⅲ　図の原稿

1　本誌ではアート紙・折り込み図表は使わない。

2　したがって版面12×18㎝を考慮すること。

3　図はそれぞれ別紙に作成し，通し番号をつけ，各図の天地を明確にすること。

4　たとえば図３などが複数の写真などで構成されるときは，版面に入るよう考慮のうえ，出来上り図を作成すること。個々の図は，図１からの通し番号とする。

5　図の説明文（キャプション）は図に記入せず，Ｂ５版200字詰原稿用紙に書き，他の文字原稿の末尾につけておくこと。

6　本文原稿に図の挿入箇所を明示すること。原稿頁の右下に「図２挿入」などと朱書し，出来上りの面積（タテ５×ヨコ８㎝），頁における位置（上下左右など）を指示すること。

7　そのままで版下になる図をつくること。図中に文字を貼りこむ場合は，別途に経費を申しうけることがある。

Ⅳ　文献表の書き方

参考文献

IB :
DAI :　　(引用の一次史料の略号，および表紙裏記載以外の雑誌などの略号をアルファベット
GAR :　　順に配列し，コロンに続いてフルタイトル表記)
Tr. Id. :

Ackemann, H. Ch. (1975) *Narrative Stone Reliefs from Gandhara in the Victoria and Albert Museum in London : Catalogue and Attempt at a Stylistic History.* Rome.

Allchin, F. R. (1968) Archaeology and the Date of Kanishka : The Taxila Evidence. In : Basham, A. L. (ed) *Papers on the Date of Kanishka.* Leiden, 4 -34.

Bühler, G. (1894) The Bhattiprolu Inscriptions. *Epigraphia Indica* 2 , 323-329.

Burgess, J. (1970) *The Buddhist Stupas of Amaravati and Jaggayyapeta in the Krishna District, Madras Presidency, Surveyed in 1882* (rep ed). Varanasi.

Errington, E. (1987) Tahkal : The Nineteenth-Century Record of Two Lost Gandhara Sites. *BSOAS* 50 (2), 301-324.

Gelder, J. M. van (tr) (1963) *Mānava Śrautasūtra Belonging to the Maitrāyaṇī Saṃhitā* (1985 rep ed). Varanasi.

Kurita, I. (1988) *Gandharan Art* I : *The Buddha's Life Story. Ancient Buddhist Art Series* I-II. Tokyo.

Kuwayama, Sh. (1994) The Horizon of Begram III and Beyond : A Chronological Interpretation of the Evidence for Monuments in the Kapiśi-Kabul-Ghazni Region. *EW* 41 (1-4), 79-120.

Le Berre, M & D. Schlumberger (1964) Observations sur les remparts de Bactres. *Monuments pré-Islamique d'Afghanistan. MDAFA* 19, 61-105.

Marshall, J. (1914) Sha-ji-ki-Dheri. *Annual Report of the Director-General of Archaeology, Archaeological Survey of India 1,1911-12.* Calcutta, 11.

Marshall, J. (1918) *A Guide to Taxila.* Calcutta.

Marshall, J. (1936) *A Guide to Taxila* (3rd ed). Delhi.

Marshall, J. (1951) *Taxila : An Illustrated Account Archaeological Excavations* I-Ⅲ. Cambridge.

Marshall, J., A. Foucher & N. G. Majumdar (1940) *The Monument of Sāñchi* I-Ⅲ. Delhi.

安藤志朗(1985)ティムール朝 Shāh Rukh 麾下の中核 amīr 『東洋史研究』43(4), 4-11.

桑山正進(1987)『大唐西域記』(訳注)(『大乘佛典』中國篇 9)林檎社.

佐藤　長(1979)『チベット歴史地理研究』岩波書店.

曾　問吾(野見山温訳)(1945)『支那西域経綸史』上　東光書林.

田原　正(1978)六朝建築の設計規準　山本五郎(編)『中國科學史研究』平凡社, 39-66.

西南アジア研究　第 46 号　1997年 3 月25日印刷　1997年 3 月31日発行
編集兼発行者　京都大学文学部内　西南アジア研究会　会 長　小野山節
年会費　維持会員12,000円, 一般会員(大学院生を含む)6,000円, 学生会員(学部在学者)4,000円
振替口座 01080-7-19867　印刷者　デジテックジャパン株式会社　京都市伏見区深草下川原町109-6